2026 年 10 月 19 日
一般社団法人　日本船主協会

ヴァシリス・キキリアス・ギリシャ共和国海事・島嶼政策大臣他
の表敬訪問について

この度、当協会は、ギリシャ共和国のヴァシリス・キキリアス（Vasilis Kikilias）海事・島嶼政策大臣、オルガ・クリアマキ（Olga Kliamaki）駐日特命全権大使ほかの表敬訪問を受けましたので、その模様について以下の通りお知らせします。本会談には、日本側から当協会の加藤副会長および篠原理事長に加え、岡西康博新駐ギリシャ特命全権大使が同席しました。

【概　要】
日　付：2026 年 10 月 16 日（金）
場　所：日本船主協会
出席者：ギリシャ共和国 ヴァシリス・キキリアス大臣、オルガ・クリアマキ大使他
　　岡西康博 駐ギリシャ特命全権大使
　　当協会 加藤副会長、篠原理事長他

加藤副会長は会談の冒頭、ギリシャ共和国の海事・島嶼政策大臣による当協会訪問が初めてであることに触れつつ、心からの歓迎の意を表するとともに、国際海運が直面する諸課題について、ギリシャ船主協会と当協会は国際海運会議所（ICS）を通じて連携していることや、両国の協力関係を一層強化していきたいと述べました。

これに対し、キキリアス大臣は、特に海事分野における両国の長年にわたる友好関係を、岡西新大使や当協会との対話等を通じてさらに発展させていきたいとの意向を表明しました。

その後の意見交換では、保護主義の台頭や地政学的リスクの高まりを背景に、国際海上輸送の基盤を成す自由かつ安全な航行が脅かされていることへの懸念が共有されました。また、国際社会の分断が進む中、国際ルールと法の支配を維持することが重要であるとの認識で一致しました。さらに、海運の脱炭素化を前進させるためには、IMO において世界共通ルールを確立することが重要であるとの認識が共有され、キキリアス大臣は、現実に即した実行可能な制度を創設することが肝要であると強調しました。



（左から）篠原理事長、クリアマキ大使、キキリアス大臣、岡西大使、加藤副会長



キキリアス大臣に記念品を
手渡す加藤副会長



クリアマキ大使に記念品を
手渡す加藤副会長

以上